

保 存

魅力ある関西

人・企業・都市が集まる「デスティネーション・カンサイ」

1997年1月

社団法人 関西経済同友会
「魅力ある関西」委員会

目 次

はじめに	1
提言の要旨	3
提言書の構成	5
1. 関西の現状	7
2. 時代の流れと関西の総意	8～ 9
3. 「魅力ある関西」委員会の活動から	10～11
4. 「デスティネーション・カンサイ」に求められる魅力	12～13
5. 「デスティネーション・カンサイ」創造に向けたアプローチ	14～15
6. 魅力ある関西の実現に向けた6つの具体的施策	
A. 関西の連携強化	16～19
B. 国際情報発信力・競争力の獲得	20～22
C. 美しい関西の創出	23～25
D. 環境に配慮した関西づくり	26～29
E. 「集客都市・関西」の実現	30～35
F. 関西スポーツ首都構想	36～38
結びにかえて	39
〔資料1〕 関西主要プロジェクト年表	41
〔資料2〕 関西を考えるマクロデータ	43
〔資料3〕 「サイバー関西プロジェクト」について	45
平成8年度・「魅力ある関西」委員会活動状況	46
平成8年度・「魅力ある関西」委員会常任委員会名簿	47～48

関西は産業構造転換の遅れや東京一極集中のあおりにより、経済的にもまた情報発信力・人を吸引する力においても地盤沈下傾向にあり、相対的な魅力の低下が指摘されている。また、平成6年に関西国際空港が開港し「関西」の顔としてリアリティーを持ち始めたとは言え、関西は集合体として連携力が弱く、関西の主張が希薄な状態となっている。

「魅力ある関西」委員会は、そんな関西の次代へつながる主張を考え、連携力を持った魅力ある関西づくりのための具体的施策を構築することを目的に、世界都市委員会、情報発信戦略委員会、新しい関西委員会の3委員会が発展的に統合され平成8年5月に発足した。

本委員会では、作家・経済評論家である堺屋太一氏や兵庫県知事の貝原俊民氏、(株)電通総研社長の福川伸次氏など斯界の先生方から関西の魅力や広域連携の在り方などについて講演を頂き、また直島文化村（香川県）での合宿研修を実施するなど活動を行いながら、「人や企業・都市が集まる魅力ある関西づくり」について本提言をまとめた。

提言の要旨

◎関西に求められる魅力

それぞれの地域が個性を持つ、豊かな自然・歴史・文化は関西の貴重な財産であり魅力である。しかし、21世紀に向けてはこれら資産を活用し、増幅する知恵が求められている。そのためには、関西が共有できる「志」を創り、その内容や活動を地域内外に伝える「情報発信力」を強化、また世界やアジアをつなぐ「接点」の整備、さらに「もてなし」という次代の関西のアイデンティティづくりが重要である。

このように魅力を立体化することで、関西は目的地化され「デスティネーション・カンサイ」となる。「デスティネーション・カンサイ」とは最後にはやはり関西という意味であり、広く世界から、またアジアから人・企業が関西を選び集まる、結果都市の連携の中心になる、そんな関西を目指したい。

◎「デスティネーション・カンサイ」の創造に向けて

以下3つをアプローチ軸に、具体的な施策づくりを検討した。

●連携化（ネットワーク）

地域の個性や資産を生かし、また弱みを連携で相互補完し、バランスある発展を目指す。また、地域、都市と郊外、産・官・学・市民が自由に参加する連携の為のシステム・場づくりや関西独自の情報発信手段の整備を行う。

●新しい型（プロトタイプ）

先導的なモデル拠点、同時にシステム・コンテンツの開発によりリーディング産業の育成を積極的に行う。

●好循環（サーキュレーション）

文化・伝統など資産や既存プロジェクトを活用、さらに効果的な触媒プロジェクトを投入することで好循環を起し関西の資産を最大化させる。

◎連携のためのしくみづくり

行政の枠組みを超えた魅力づくりを進めるために、全関西を等距離で視野におさめ、産・官・学・市民一体で関西の立場にたって考え、改革への機運を盛り上げる機関として「関西圏センター」の設立を提言したい。しかし、実現するにあたっては克服すべき課題が幾つかある。今回の提言では、まず「関西圏センターネット」というネットワークシステムをつくり、そのサイバースペース上に「関西圏センター」の機能を設置することからスタートし、情報・ノウハウの交換と共有を、また人や技術の蓄積を図り、その成功事例を基に機能を事業の開発・支援まで順次進化させたいと考えている。

提言書の構成

1 関西の現状

- 見えないビジョン、低下する連携力
 - ・成長率の低下「2割経済」未満
 - ・求められるポスト3大プロジェクト
- 相対的な魅力の低下
 - ・続く人口流出の超過
 - ・伸び悩む交流人口
- 整備の遅れる情報発信機能
 - ・独自性のないコンテンツ（情報の内容）

2 時代の流れと関西圏の総意

- 加速する地方分権化への流れ、
求められる「自立と連携」
 - 産・官・学・市民参加型コミュニケーションの確立
 - 既存プロジェクトの有機的連携と
触媒プロジェクトの開発
- 旧3委員会活動が捉えた関西への期待

 - ・情報発信・文化・住みたい・遊ぶ・楽しい
 - ・儲かる・ネットワーク・都市連合

6 魅力ある関西の実現に向けた6つの具体的施策

A 関西の連携強化

- 関西圏センター構想
 - ・・・・21世紀の関西の志、地域連携の仕組みづくり
- 関西圏センター・・・連携の推進エンジン
- 関西圏センターネット・・・連携の中核機能

B 国際情報発信力・競争力の獲得

- 関西シリウッドネットワーク・・・マルチメディア産業の創生
- ユニバーサルユニバーシティ
- 知的所有権センター
- アジアのゲートシティ関西・・・企業・情報・人を集める
- アジアマネジメントセンター

C 美しい関西の創出

- KANSAI STYLE
 - ・・・・都市景観の保全、新しい都市美・アメニティーの創造
- モデルストリートプロジェクト
- 関西大賞
- 関西歳時記

D 環境に配慮した関西づくり

- ブルーミング関西・・・花と緑にあふれた人間主体の街づくり
- 花博21
- 市民の森&グリーンツーリズムプログラム
- サステイナブル関西・・・次世代に継承すべき環境の保全
- 関西トラスト
- 関西ジオグラフィック
- グリーンフォーラム関西

E 「集客都市・関西」の実現

- ・・・・関西の魅力を集客につなげる施設、事業の開発
- 関西アニバーサリー ○関西記念日&関西ウィーク
- 関西食街道 ●食遊館
- 関西ライトアップ ○関西夜市
- ミュージアムナイト&ナイトエデュケーション

F 関西スポーツ首都構想

- ・・・・スポーツメッカづくりと2008年大阪リピック招致
- スポーツメッカ関西 ●オリンピック勝手連
- アジアインターハイ

4 魅力ある関西とは

- 豊かな関西のストック
 - ・自然・歴史・文化
 - ・個性的な都市
- より強化された魅力
 - 次代を支えるサービス・システム
 - ・世界をつなぐ
 - ・もてなし（ホスピタリティー）
 - +
 - さらなる魅力の強化
 - ・志・ビジョンがある
 - ・情報発信力がある

5 魅力創造に向けたアプローチ

- NETWORK（連携化）
 - ・自立と連携によるバランスある発展
 - PROTOTYPE（新しい型）
 - ・先導的拠点、ソフトの開発
 - CIRCULATION（好循環）
 - ・資産の最大化、アイデンティティ確立
- 情報発信力強化の手法
- 特化・・・イベント化
 - 連続化・・・個の魅力集積
 - 顕彰化・・・発掘、表彰

人・企業・都市が集まる

デスティネーション
カンサイ

目的地化

3 「魅力ある関西」委員会の活動から

- 講演会から
 - ・国主導ではなく地域が構造改革のエンジンとなる
 - ・情報共有を軸にした自治体間連携の重要性
 - ・魅力ある地域づくり：情報発信力の強化、豊富な選択性の確保、コスト競争力の獲得、特色づくり
 - ・アジアとの連携・交流、地球的な課題への貢献、日本では関西にしかない機能の誘致と開発
- 直島文化村（香川県）のベネッセハウスを見学から
 - ・「文化と地域起こし」というビジョンが新しい価値をつくるという実験を体験
- 委員会の討議から
 - ・次代の関西の魅力やアイデンティティを支える概念として「もてなし」（ホスピタリティー）の重要性

※ ○印のプロジェクトは特に関西圏センターネットとの連携により推進されるもの

1. 関西の現状

● 見えないビジョン、低下する連携力

関西の経済は、産業構造転換の遅れや東京一極集中のあおりで、1960年代半ばから地盤沈下傾向にあり、日本のGDPに占める関西の割合も戦前の「3割経済」はもちろんのこと、93年度は17.5%と「2割経済」にも満たない存在になってきている。

ここ数年は関西国際空港・関西文化学術研究都市など、関西復興のために産・官・学をあげて取り組んできた大型プロジェクトが相次いで実現し、関西のGDPシェアを下げ止め、地域活性化に明るい兆しを見せてきたようにみえる。

しかし、98年の明石海峡大橋の完成以降の大型プロジェクトについては、魅力ある関西としての発展を支えるビジョンの不在や連携力の低下から、計画の数およびそのダイナミズムにおいて十分とはいえず、その早急な立案が今求められている。

※ 「資料編 関西主要プロジェクト年表」参照

● 続く人口流出の超過、伸び悩む交流人口

1600年代、大坂、兵庫、京都の3府県の人口は250万人・3大都市圏に占めるシェアは50.8%であったと言われ、当時の関西は最も輝いていたと考えられる。

しかし、都市の魅力や成長性の指標である関西の人口は、社会増という視点からは一貫して転出超過となっており、91年から94年までの4年間でも大阪、兵庫、京都、奈良で年平均2万5千人減少している。この人口減という点は、貝原兵庫県知事の指摘でも触れられているところだが、「暮らしてみたい魅力」の低下を意味している。

一方「訪れてみたい魅力」の指標である観光客入込客数の伸び率からみた交流人口についても歴史的資産を多く抱えた京都府・奈良県など伸び悩みがみられ、こちらも魅力の低下が認められる。

※ 「資料編 関西を考えるマクロデータ」参照

● 整備の遅れる情報発信機能、独自性のないコンテンツ

また、これまでの委員会活動を通じ再三指摘されてきた都市の魅力の多くを占めている情報発信力については、マスコミの制作・編集・発信機能の東京一極集中だけによるのではなく、関西として発信すべき独自性あるコンテンツ（情報の内容）の不在も堺屋先生により同時に指摘された。

※ 郵政省の情報流通センサスからみた93年度の情報発信量では、関東の情報発信シェア39.6%に対し関西は16.6%であり、そのシェアは関東に比べて圧倒的に低い。

※ 講演内容については「3.「魅力ある関西」委員会の活動から」参照

2. 時代の流れと関西の総意

● 加速する地方分権化への流れ、求められる「自立と連携」

今、これまでの東京一極集中の是正と画一的で均一的な地域の発展が問題となっている。そして財政問題も含め「地域のことは地域に任せる」地方分権化への流れが加速している。

このような流れの中、近畿2府7県3政令市・経済団体共同意見として96年9月に提案された「新しい全国総合開発計画策定に向けた共同意見書」において、21世紀の国土づくりを先導する圏域・近畿圏として「自立と連携による多様性に富んだネットワーク型圏域」が近畿圏の役割とされた。

また、地方分権化の流れは同時に、受け皿としての地域に効率的な運営規模や政策立案能力・実行力を求めており、それは「連携」の視点がより強く求められていることを意味する。関西は京都・大阪・神戸など多数の個性ある自立した都市の集合であり、ネットワーク型の大都市圏としての基盤を強く持った地域である。「自立と連携」による魅力づくりこそ関西圏にふさわしいと言える。

● 産・官・学・市民参加型コミュニケーションの確立

多様性があり、特色のある地域づくりが可能な地方分権の時代において求められるのは、上意下達の縦のライン型のコミュニケーションではなく、産・官・学・市民が一緒に参加できるネットワーク型のコミュニケーションのしくみである。

※ 96年12月に発表された「新しい全国総合開発計画の調査検討報告」においては、国主導の開発から「参加と連携」をキーワードに地域住民の主体性を求めている。

● 既存プロジェクトの有機的連携と触媒プロジェクトの開発

関西ではここ数年多様なプロジェクトが各地域で計画され開発されてきた。魅力ある関西づくりに向けては可能な限りそれら既存のプロジェクトの資産が活用され、さらにその資産が増幅されることが重要である。その意味で新規に計画されるプロジェクトには既存のプロジェクトや構想をつなげ、点を線化・面化する「魅力づくりの触媒機能」が求められる。

○旧 3 委員会活動が捉えた関西への期待

魅力ある関西委員会は、下記の旧 3 委員会の発展的統合という形で設置された。そこで、これまでの旧 3 委員会の見た関西への期待を関西の総意として再検証してみると、以下のようなキーワードが浮かび上がってくる。

- 情報発信力 ● 文化 ● ネットワーク ● 都市連合
- 住みたい ● 遊ぶ ● 楽しい ● 儲かる

※ 世界都市委員会

「世界都市関西」を、高い文化創造力を持ち、価値ある情報を世界に発信できる都市と位置づけ、情報発信力を強化するための文化装置としての「JAPAN MUSEUMの創設」を提言。

情報発信戦略委員会

「情報発信力強化の構図」としてプロデュース、クリエイティビティ、イメージーションの 3 軸を、そして目指すべき関西として住みたい都市、“楽遊”都市、儲かる都市づくりを提言。

新しい関西委員会

「望ましい都市の姿」を安全、安心の都市、開かれた都市、ネットワーク都市とし目指すべき「2010年の関西像」をアジアの「光」輝く都市連合・KANSAI魅力人間都市とした。

3. 「魅力ある関西」委員会の活動から

「魅力ある関西」委員会では、斯界の先生を招き都市の魅力や広域連携の在り方などについて講演を頂き、常任委員会やスタッフ会でさらに討議を深めた。講演では以下のような指摘があり、提言づくりに向けた大きな指針となった。

<講演要旨>

●10月25日 作家・経済評論家 堺屋太一 氏

「“魅力ある関西”の創造に向けて ～21世紀の関西ビジョン～」

- 出超の旅行者数・直接投資や、受身な情報発信量など日本の魅力自体が低下傾向にある
- 魅力低下を招いたのは「規格大量生産国家づくり」という基準統制が原因であり、結果東京一極集中や規格遵守のためのコスト高という非効率な社会を生んだ
- 特に産業経済の中核管理機能、情報発信機能、文化創造活動拠点の東京への政策的集中による一極集中は日本の魅力を低下させた大きな要因である
- 魅力ある都市とは、コストが低く規制の少ない儲けることの出来る都市であり、物価が安く暮らしやすいことが重要である
- また選択性が豊富であることも都市の魅力であり、関西は少なくとも関東より選択の余地を大きく持たなければ魅力ある地域にはなれない
- また情報発信力も重要であり、その機能および独自性あるコンテンツの開発が望まれる

●12月10日 兵庫県知事 貝原俊民 氏

「関西圏の共栄型発展を目指して ～広域連携の視点から～」

- 関西が一番輝いていたのは政治の中心京都、商業・産業の中心大阪があり人口の集中していた1600年ごろ ※「資料編 関西を考えるマクロデータ」参照
- 21世紀を迎えるにあたって留意すべき社会変化は、高齢化・少子社会の進展であり、若い生産人口の減少や65才以上の非生産人口の増加は産業構造の転換を促す
- その時代には、福祉・生涯学習・芸術文化などの分野の消費行動が高くなり、注目の産業シーズは金融・3次産業・社会資本の整備にあると考えられる
- アジア諸国では経済成長により海外渡航が自由化され観光客の大幅増加（2025年の日本への旅行者は3,000万人）が予想され、アジアとの「大交流の時代」が到来する。それに対応するところに関西発展の鍵がある
- 関西が再び輝く為には、国際的に魅力のあるもの、地球的課題に寄与するもの、日本では関西にしかないもの、を関西に持たなければならない
- 広域連携については、単なる合併論議には反対であるが、地域間で情報交換を密にし、関西全域で関西にしかないものを誘致することが大切である

●12月16日 (株)電通総研 社長兼研究所長 福川伸次 氏
「関西圏の緩やかな連携に向けた具体的方策について」

- 構造改革への取り組みの遅れなどにより、日本に対する関心の相対的な低下が見られる
- 21世紀にかけては、従来のように国が産業を興すのではなく、新しいシステムづくりに向けた都市・地域の役割が高まる
- また国境を越えた都市と都市との緩やかなネットワークなど異なった価値観との交流が重要であり、関西がアジアとの連携を進めていくことの意味は大きい
- 都市の魅力は行ってみたい、暮らしてみたい魅力であり、「活力」「安全」「遊び」「美しさ」などをポイントにしながらも、特色を持つことである

このように講演からは、

- 国主導ではなく地域が構造改革のエンジンとなる
- 情報共有を軸にした自治体間連携の重要性
- 魅力ある地域づくりに向けた、情報発信力の強化、豊富な選択性の確保、コスト競争力の獲得と特色づくり
- 関西に求められる、アジアとの連携・交流、地球的な課題への貢献、日本では関西にしかない機能の誘致と開発

などが指摘された。

また、96年の9月には当委員会の副委員長である建築家安藤忠雄氏の力作である直島文化村（香川県）のベネッセハウスを見学し、「文化と地域起こし」というビジョンが新しい価値をつくるという壮大な実験を目の当たりに体験した。

さらに委員会では、次代の関西の魅力やアイデンティティを支える概念として「もてなし」（ホスピタリティ）の重要性が論議された。

4. 「デスティネーション・カンサイ」に求められる魅力

これまでの与件を踏まえた魅力ある関西づくりの方向性について記してみたい。

●豊かな自然・歴史・文化のストック

それぞれの地域が個性を持つ、豊かな自然・歴史・文化の「資産（ストック）」は関西の貴重な財産であり魅力である。しかし、21世紀に向けては、これら資産を単なるバックグラウンドとして論じるのではなく、自然・歴史・文化という資産を活用し、知恵を絞って行動することが求められる。

●求められる次代を支えるサービス・システムのインフラ整備

次に知恵づくりの方向性について求められるのは、豊かなバックグラウンドに世界・アジアをつなぐ「接点（インターフェース）」を整備し、さらに「もてなし（ホスピタリティー）」という次代の関西のアイデンティティを支えるインフラの整備である。

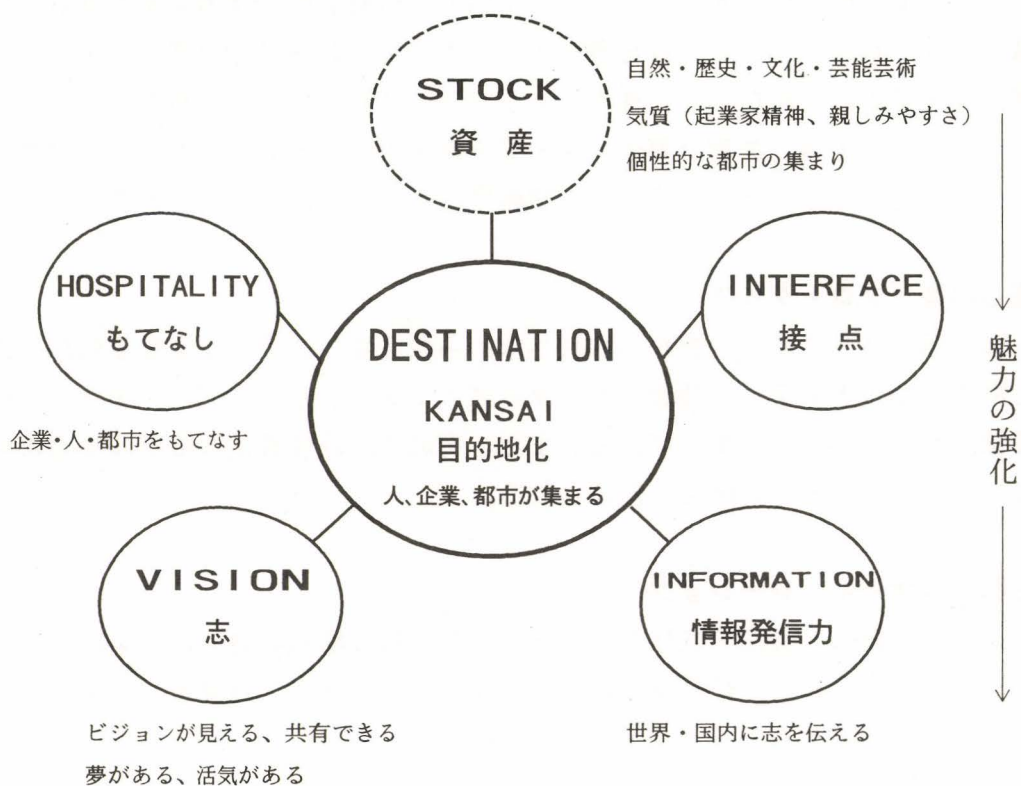
●「志」づくり、「情報発信力」強化による魅力の最大化

さらに、関西が共有できる「志（ビジョン）」を創り、その内容や活動を国内外に伝える「情報発信力」の整備を通じ関西に活気が生まれ、その活気がさらに関西の魅力を増幅する。

●人・企業・都市が集まる「デスティネーション・カンサイ」

このように魅力を立体化することで、関西は目的地化され「デスティネーション・カンサイ」となる。「デスティネーション・カンサイ」とは、最後にはやはり関西という意味であり、人・企業が関西を選び、結果関西が都市連携の中心になることである。

○「魅力ある関西」の構図



5. 「デスティネーション・カンサイ」創造に向けたアプローチ

「デスティネーション・カンサイ」創造に向けたアプローチについては、「連携化（ネットワーク）」、「新しい型（プロトタイプ）」、「好循環（サーキュレーション）」の3つを考え、それぞれのアプローチに対し核となる施策を配置した。

●連携化（ネットワーク）

均一的で無個性に、すべての地域に平均的に機能を配分する均衡型発展ではなく、地域の個性や資産を生かし強みを強化する。さらに、弱みを相互補完型で補い、活力を連携で開発する。そんな自立と連携によるバランスある発展を目指すことが今求められている。また、地域、都市と郊外、産・官・学・市民・NGOが参加する連携のためのシステム・場づくり、また関西独自の情報発信手段の整備も期待されている。

●新しい型（プロトタイプ）

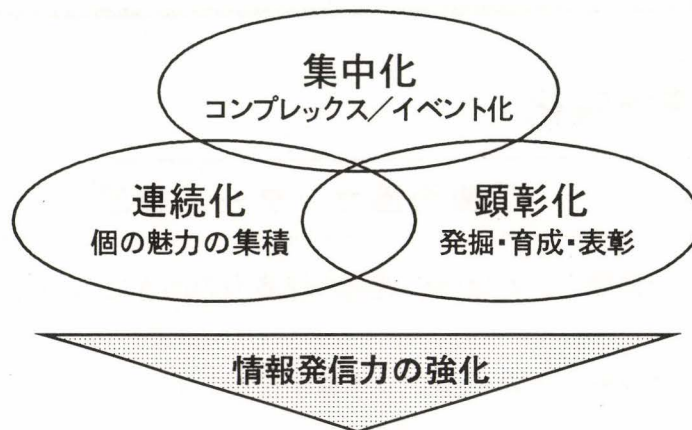
図が示すように現在の姿から次代へ求められる姿へスライドさせる戦略の装備が必要である。マルチメディア関連やビクターズインダストリーなどリーディング産業の育成を積極的に行うことが重要である。また、育成に向け先導的なモデル拠点の開発や同時にソフト、システムの開発が期待される。

●好循環（サーキュレーション）

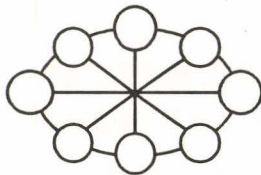
文化・伝統など資産や既存プロジェクトを活用し増幅、さらに効果的な触媒プロジェクトを投入することで好循環を起こし関西の資産を最大化させる。結果、スポーツ・文化首都という関西のアイデンティティが確立される。

さらに、これまで懸案とされてきた情報発信力強化については、イベント化、複合化する「集中化」、個の魅力をつなげる、集める「連続化」、魅力を発掘し表彰する「顕彰化」により対応したい。

以下、3つのアプローチ軸、3つの情報化施策のかけ算から生まれた6つの実現に向けた具体的施策について個別に提言したい。



NETWORK (連携化)



- 自立と連携によるバランスのとれた発展
 - 地域、都市と郊外、産・官・学・市民・NGO
 - 均衡型発展から共栄・交感型発展へ
 - 地域の個性や資産活用
 - 強みの強化と弱みの克服
 - 相互補完型連携、活力開発型連携
- 連携のための合意の場・システムづくり
- 次代の情報発信基盤の整備
 - 関西独自の情報発信システム確立

A. 関西の連携強化

- ☐ 関西圏センター構想
 - …21世紀の関西の志、地域連携の仕組みづくり

B. 国際情報発信力・競争力の獲得

- ☐ 関西シリウッド
 - …マルチメディア産業の創生
- ☐ アジアのゲートシティ関西
 - …企業・情報・人を集める

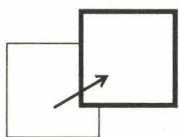
C. 美しい関西の創出

- ☐ KANSAI STYLE
 - …都市景観の保全、新しい都市美・アメニティーの創造

D. 環境に配慮した関西づくり

- ☐ ブルーミング関西
 - …花と緑あふれた人間主体の街づくり
- ☐ サステナブル関西
 - …次世代に継承すべき環境の保全

PROTOTYPE (新しい型)



- リーディング産業の育成
 - マルチメディア
 - ビジターズインダストリー
- アジアのセンター的機能づくり
- 先導的拠点の開発
- 先導的ソフト・システムの開発
- 環境・景観の保全・向上

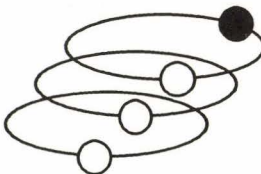
E. 「集客都市・関西」の実現

- ☐ 関西アニバーサリー
- ☐ 関西食街道
- ☐ 関西ライトアップ
 - …関西の魅力を集客につなげる施設・事業開発

F. 関西スポーツ首都構想

- ☐ スポーツメッカ関西
 - …スポーツメッカづくりと2008年大阪オリンピック誘致

CIRCULATION (好循環)



- 資産の最大化
 - 文化・伝統の継承・拡大
 - 既存プロジェクトの活用・増幅
 - 効果的な核プロジェクトの投入
- アイデンティティの確立
 - スポーツ・文化首都

6. 魅力ある関西の実現に向けた6つの具体的施策

A. 関西の連携強化

「関西圏センター」構想

関西をひとつの経済圏とした場合の地域の経済力の高さについては、これまでも指摘されてきた。注1

しかし現実には各府県ごとのインフラ整備が重複したり、関西全体の魅力集積の総合性が拡散したり、といった力の分散が起こっている。結果、関西は次代への成長に向けたビジョンづくり、情報発信力の強化という課題の克服には至っていない。

こうした分散化を克服し、府県・市町村単位の行政の枠組みを超えた魅力づくりや効率化を進め、さらに総合力を発揮するためには、全関西を等距離で視野におさめ、産・官・学・市民一体で関西の立場に立って考え、改革への機関が必要になる。その機能として「関西圏センター」の設立を提言したい。

また、現在社会の潮流として地方分権の流れが加速する一方で、同時に広域行政の取り組みが求められている。このような時代のニーズを受けた「関西圏センター」の実現こそ、今求められている。しかし、実現するに当たっては克服すべき課題がいくつかある。今回の提言では、まず「関西圏センターネット」というネットワークシステムをつくり、そのサイバースペース上に「関西圏センター」の機能を設置することからスタートし、情報・ノウハウの交換と共有を、また人や技術の集積を図りたい。そしてその成功事例を基に機能・組織を順次進化させ、事業の開発・支援まで機能を強化したい。

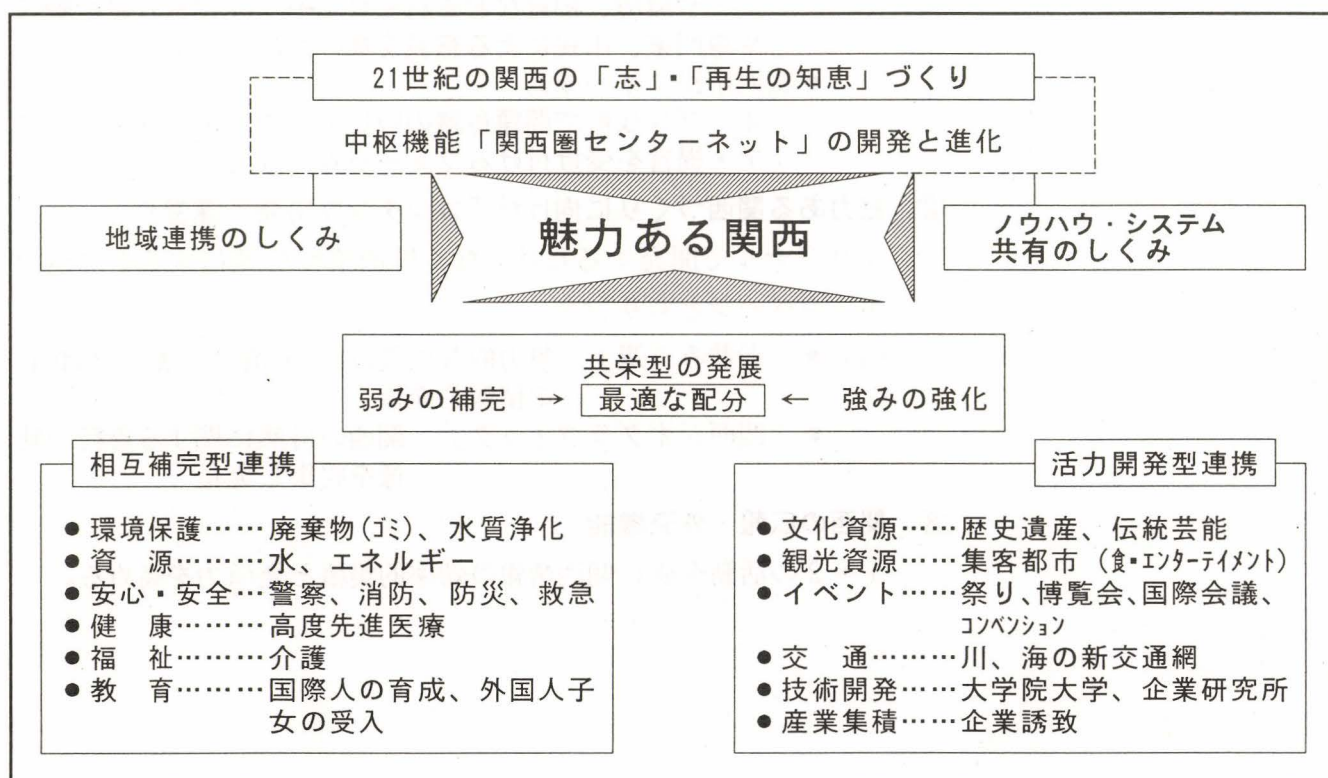
注1 大阪、京都、滋賀、兵庫、奈良、和歌山、福井の二府五県の93年域内総生産は82.7兆円でスペイン、カナダなど一国の規模を上回る。

1. 関西圏センター

●主 旨：関西圏センターでは各地域の同質型発展ではなく、地域の個性や資産を生かし、強いところは強めながらも、弱点をすべて補強するのではなく、地域の連携やノウハウ・システムの共有により「関西全体としての共栄型発展」を目指したい。そのようなバランスのある発展が魅力ある関西を実現する。

●概 要：関西圏センターの4つの機能

- ① 21世紀のあるべき関西の「志」づくり
 - 力の分散化を克服する、21世紀へのビジョンづくり
- ② 21世紀を力強く生き抜くための関西「再生の知恵」づくり
 - ビジョン実現のための具体的なプログラム構想とその実現
コーディネート
- ③ 産・官・学・市民一体での「知恵を生むしくみ」の開発
 - 中枢機能「関西圏センターネット」の開発としくみの強化
- ④ 魅力ある関西づくり
 - 相互補完型連携、活力開発型連携によるバランスある発展



2. 関西圏センターネット

- 主 旨：関西圏センターの中核機能としてつくられた産・官・学・市民参加の情報ネットワークシステム。関西の連携に向けてはまず第一ステップで、「関西圏センターネット」のサイバースペース上に連携のしくみやノウハウ開発のための「フォーラム」を開設。さらに魅力ある関西実現に向けた具体的施策と連動した「コンテンツの開発・運営」による情報発信力強化、成功事例づくりを目指す。

※ ネットワークシステムづくりでは、「サイバー関西プロジェクト（資料3）」から技術的支援を受ける。

- 概 要：関西圏センターネットの5つの機能

① 地域連携の契機づくり、ノウハウ開発のための「フォーラム」の開設と運営

- ex. ● 関西知事・市長フォーラム
知事や市長が関西のビジョンや各々の開発計画について
討議するクローズドなフォーラム
- 自治体職員の職能別フォーラム
O-157や震災など危機管理に向け業務上の知恵やノウハウを即時に交換するフォーラム
- テーマや解決型フォーラム
ゴミや環境、福祉などそれぞれのテーマに取り組む職員や専門家、市民による意見交換のためのフォーラム
- 関西市民フォーラム
オープンな形で問題意識の吸い上げや、解決へのアイデア・提言を受け付けるフォーラム など

② 魅力ある関西づくりに向けた「コンテンツ開発・運営」

オリジナルで開発するだけでなく関西情報を発信するその他のホームページともリンク。

- ex. ● 「街並み百選」：魅力的な街並み100を選び、美しい関西の情報を発信
- 「関西ジオグラフィック」：関西の自然に関する資料や映像を収集し発信

③ 関西の広報・外交機能

1・2の活動を通じ関西情報の効率的集積と発信力を高める。

④ ネットワークシステムのインフラ整備……サイバー関西プロジェクトによる技術的支援

- 自治体や公共施設を中心に、サイバー関西で実験中の156Mbpsの高速回線の接続拠点を拡大
- 多くのシステムが円滑に稼働するための接続システムの開発と提供

⑤ 新規事業の開発とサポート

「フォーラム」運営や「コンテンツ開発」などを通じて蓄積された人と情報資産の活用。

- 魅力ある関西づくりに向けた新規事業の開発とコーディネート
- 各事業の実現に向けた支援・サポートの実施

※「関西圏センターネット」の機能・組織を進化させた対応

- 推進方法：
- 97年度に、産・官・学メンバーによる「設立準備委員会」を組織し、98年度より関西圏センターの運営に向けた骨格を構築
 - 98年度よりフォーラム運用、コンテンツ開発に着手

B. 国際情報発信力・競争力の獲得

関西シリウッド

21世紀の基幹産業として期待される情報・ソフト関連産業を誘致・集積し、関西のマルチメディア産業の国際的拠点としての発展を目指す「関西シリウッド」構想。

関西文化学術研究都市や播磨科学公園都市、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、WTC、京都リサーチパークなど、現在関西にて進行中の各プロジェクトを立体的に連携し、「関西シリウッドネットワーク」の構築を図る。

また、新しく核となるプロジェクトを開発し、基礎研究からインフラ、システム・ソフト、コンテンツ開発までをカバーする世界的規模のマルチメディア・コンプレックスエリアとして、関西全体で相互補完機能を有した「関西シリウッド」の実現を目指す。

※ シリウッド＝シリコンバレー（最先端情報産業）＋ハリウッド（エンターテインメント産業）

1. ユニバーサル・ユニバーシティ

●主 旨：「関西シリウッド」構想の基盤となるマルチメディア関連の人材育成と都市への集客技術の習得・開発を主目的とした国際的エンターテインメント産業の大学院大学の開設。

●概 要：ユニバーサル・スタジオ・ジャパンとの連携によりMCAノウハウが習得できるなどの学習的価値、企業とのパートナーシップでの運営・研究による実践的価値の2面を備えた学・職一体型の大学院大学。

●学習的価値

- MCAなどアメリカのトップエンターテインメントのノウハウ習得。
- マルチメディア関連（エンジニアリング・デザインング…）エンターテインメント関連（アクティング・マネージメント…）ホスピタリティ関連（ホスピタリティ・レクリエーション…）など、多彩なカリキュラム設定
- ホテル学教育の名門・コーネル大学などとの連携

●実践的価値

- 企業とのパートナーシップによる実践的運営・研究
- 企業人材の教育や能力開発機能の付加
- マルチメディア学識経験者やエンターテインメント関係者をネットワークして共同研究

- 推進方法：現在進行中の情報・エンターテインメント関連プロジェクト、大学・研究機関、企業との連携による推進

2. 知的所有権センター

- 主旨：CATV、CS等による多チャンネル化やインターネットなど、インタラクティブでボーダレスな本格的マルチメディアの時代が到来した。マルチメディア時代の到来は、従来の著作権が音楽・写真等保護対象によって縦割りで管理されているなど、アナログ時代の著作権法では処理できない多くの問題を提起してくる。そのため、マルチメディア時代の知的所有権法について、世界的レベルで検討し、調整と制度化を図り、同時にその適正な運用・管理を行う「知的所有権センター」の開設が待たれる。

- 概要：マルチメディア時代に対応した所有権法の国際的な機関「知的所有権センター」を開設することで、アーティストやソフトハウスが集まり、マルチメディア素材の共通利用が促進される。結果、関西シリウッド構想の実現を加速する。

- 知的所有権法の検討・調整

- 国内的には→●個別に検討の進む文化庁や郵政省・通産省などとの連携
- 国際的には→●世界知的所有権機関（WIPO）での検討内容等との調整

- 知的所有権法の制度化協力

- マルチメディア時代に対応した国際ルールとしての知的所有権法の制度化に協力

- 知的所有権法の運用・管理

- 著作権処理のための総合的なサポートセンターの開設

- 推進方法：自治体が文化庁・郵政省・通産省や企業などとの連携により推進

アジアのゲートシティ関西

関西国際空港の開港や神戸港の整備など、関西はそのロケーションやアクセス面での優位性を発揮して、アジアの時代といわれる21世紀に向け「アジアのゲートシティ」としての役割や機能の開発が期待される。

ゲートシティとして機能するためには、関空の二期事業など国際空港機能の整備にとどまらず、VIPのための自家用飛行機の発着枠の拡大を踏まえたゼネラル・アビエーションシステム開発や、それと連動したアジア各国の企業や情報、人が集う「アジアのゲートシティ」にふさわしい施設の開発が求められる。

※ ゼネラル・アビエーション：general aviation
定期航空輸送以外の、産業用・自家用・スポーツ・農業散布航空などの総称。

1. アジアマネージメントセンター

- 主 旨：国際化がさらに進む21世紀に向け、関西は世界が関心を持つオリジナリティの高い情報を生み、発信する力が求められている。
そのためには「日本のゲートシティ」関西ではなく、アジア各国の企業や情報、人が集う施設や機能の整備・開発が重要である。

- 概 要：国際空港としての実績のある伊丹空港や開発計画の進む神戸空港、二期事業化に取り組む関空をゼネラル・アビエーションとして整備し、その周辺地区に、各国各企業のアジア支店・出張所・研究機関や国連のアジア事務局機能などを集積したマネージメントセンターを開設し、関西の活性化とともにアジアの発展に貢献する。

- アジアマネージメントセンターの機能

- 国連の各関係機関やアジアの事務局
- 各国大使館・領事館機能
- 各企業のアジア支店
- 各国・各企業の研究・R & D機能
- 各国の放送・情報発信機能

- アジアマネージメントセンターの施設

- ビジネスセンター
- 会議室・エキシビジョンホール
- ミュージアム・ライブラリー
- コミュニティスペース・レストラン・マーケット

- アジアマネージメントセンターの環境

- ゼネラル・アビエーションシステム整備
- 住環境整備
- アクセス整備

- 推進方法：国、自治体によりグランドデザインを構築

C. 美しい関西の創出

KANSAI STYLE

関西圏は伝統的な里山風景・古都のたたずまい・近代の都市景観から先端的な超高層ビル群まで多彩な景観を有するとともに、都市空間や生活空間に隣接して豊かな自然環境にも恵まれている。

魅力ある関西づくりに向けては、恵まれた自然環境や都市景観のよりよい保全を図るとともに、新しい都市美観の創出が期待されるため、歴史と伝統に培われた関西独自の美意識とセンスによる「カンサイスタイル」での美観創出を図る。

1. モデルストリートプロジェクト

●主 旨：関西の各都市を代表する街並みづくりに向けモデルストリートを選定し、建築物の景観基準や街路管理の見直しと再生を通じて美観創出を図る。

●概 要：国際都市と呼ばれる街は、パリのシャンゼリゼなど、都市と調和したストリートを持ち、空間の魅力を高めている。これらを例に、「カンサイスタイル」委員会の組織化や基準の策定により、街並みが持つ個性や資産を最大限に活かした美観創出ムーブメントを推進する。

●委員会の組織化と基準づくり

- 関西の学識経験者やアーキテクチャー・デザイナー・デベロッパーに市民代表を加えた「カンサイスタイル委員会」の組織化
- 委員会の協議・検討による「カンサイスタイル」の基準づくり

●モデルストリートの選定

- 「カンサイスタイル委員会」による関西の都市を代表する、街並みづくりに向けたモデルストリートの選定
 - ＜候補地＞・再開発の進む大阪「西梅田」「北梅田」地区
 - ・地下鉄東西線の開発が進む京都「御池通り」
 - ・震災復興の進む神戸「北野町」「旧居留地」
 - ・城下町風情が残る和歌山「ぶらくり町」 など

●街並みの個性を活かした美観創出

- 「カンサイスタイル委員会」のマスタープランに基づき、街並みの個性や資産を活かした新しい美観の創出

- 推進方法：●自治体、学識経験者やアーキテクト・デザイナー・デベロッパー及び市民の参加により「カンサイスタイル委員会」を組織して運営
- 関西圏センターネットと連携した情報収集と発信

2. 関西大賞

- 主旨：魅力ある関西づくりに向け、関西の美観創出や環境向上・話題提供に貢献した団体やコミュニティー・個人などを対象とした顕彰制度。
既存の賞が建築物や緑地・広場などのハード対象の顕彰制度なのに対し、ソフトも対象とした新しい顕彰制度とする。

- 概要：●魅力創造賞＝関西に新しい魅力を生み出した団体・個人を顕彰
- 魅力保全賞＝既存の魅力を良好に保全した団体・個人を顕彰
- 魅力表現賞＝関西の魅力を美しく表現したアーティストなどを顕彰
- などの各賞を設け、マスコミの協力・タイアップにより毎年1回該当者を選出して表彰する。
- 候補者ノミネート
 - マスコミの協力・タイアップにより各賞候補者をノミネートする
- 該当者の選考
 - 関西在住の学識経験者やマスコミ代表などにより選考委員会を組織化して各賞該当者を選考する
- 受賞者の表彰・発表
 - 各賞受賞者に表彰状や記念品を進呈するとともに、新聞や雑誌を通じてその活動内容を紹介する

- 推進方法：●自治体、マスコミ、学識経験者により「関西大賞委員会」を組織して運営
- 関西圏センターネットと連携した情報収集と発信

3. 関西歳時記

●主 旨：四季を味わう魅力に富んだ関西のイメージ発信に向け、関西の自然環境や祝祭・行事・風物などを歳時記形式で再編集して関西圏センターネットのコンテンツとして発表するとともに、新聞や雑誌にて情報化して集客を促進する。

●概要：関西の私鉄各社やマスコミの協力・タイアップにより、また現在推進計画中の「歴史街道」や「阪神・淡路百名所づくり」等とも連動し、5節句・24節気を軸に、関西の魅力を紹介して四季を通じて集客を促進する。

ex. ●関西の四季便り

- ・カンサイスタイル初詣
- ・カンサイスタイル花便り
- ・カンサイスタイル夏祭り
- ・カンサイスタイル紅葉狩り

●関西街並百選

●推進方法：●自治体、私鉄各社やマスコミのタイアップによる推進
●関西センターネットによる情報発信

D. 環境に配慮した関西づくり

ブルーミング関西

1990年の「国際花と緑の博覧会」の成果ともいえるエコロジー都市としてのイメージ資産を、21世紀に向けて継承・拡大していくための関西全域における環境改善構想。関西の豊かな自然や恵まれた景観の保護・保全を基本精神に、「ブルーミング関西」をテーマとして市民参加型のムーブメントを展開する。

また、高齢化社会となる21世紀に向けて、関西全域にて花と緑にあふれた人間主体の地域づくりを推進し、永住圏・交流圏としての魅力ある関西を実現する。

※ ブルーミング：blooming=花の咲いた、花盛りの、栄えている。

1. 花博 2 1

- 主 旨：1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の主旨の再認識と対外的に確立されたエコロジー都市としてのイメージの強化を意図し、「ブルーミング関西」の核プロジェクトとして開催。同時に関西の豊かな自然や恵まれた景観の保全を目指す。
- 概 要：「国際花と緑の博覧会」のテーマ性やコンセプトなどを継承しながらも、一拠点開催型から多拠点分散型へ・広域動員型から市民参加型へ・イメージ発信型から実行推進型へと発展させ、2000年のジャパンフローラ（兵庫県）を弾みに、21世紀初頭に開催して都市圏モデルとしての価値づくりを図る。
 - 一拠点開催型から多拠点分散型へ
博覧会形式の一拠点開催型ではなく、関西全体に会場を設定・ネットワークしての多拠点分散型として展開する
 - 広域動員型から市民参加型へ
広域からの動員促進型だけではなく、市民の参加・体験を優先した一体型のムーブメントとして展開する
 - イメージ発信型から実行推進型へ
単に関西のイメージアップだけではなく、実質的な環境の保全や向上につながる実行推進型ムーブメントとして展開する

- 推進方法：●自治体と企業による推進
- 関西圏センターネットと連携した情報収集と発信

2. 市民の森づくり&グリーンツーリズムプログラム

- 主旨と概要：21世紀の高齢化社会に対応した生きがいづくりのためのコミュニティスペースとしての都市での「市民の森」を整備し、高齢者たちがふれあい・語り合い・交流する場づくりを図る。
また、郊外や過疎地をアウトドアやレクリエーション施設などとし、緑と親しむ「グリーンツーリズム」のスポットとして整備する。

- 推進方法：自治体により推進

サステイナブル関西

21世紀に向けた人類全体の共通課題ともいえるサステイナブル・ディベロップメントの思想を反映した関西の環境保全構想。

関西圏センターネットを通じて関西の環境や保全活動に関する情報を収集・発信して市民の環境への意識向上を図るなど、「サステイナブル関西」をテーマにマスコミや企業・市民一体型のムーブメントを展開し、次世代に継承すべき資産としての環境の保全を図る。

※ サステイナブル：sustainable =持続可能な

※ サステイナブル・ディベロップメント：sustainable development =将来の世代のニーズを満たす能力を損うことなく、現在の世代のニーズを満たすような持続可能な開発。

1. 関西トラスト

- 主 旨：環境破壊が不安視される地域を選出し、マスコミや企業・市民の参加によるトラスト運動を展開して環境や景観の維持・保全を図る。

※トラスト運動：資金を募り、環境保護の必要な地区・地域を購入して管理する環境保全活動。

- 概 要：関西圏センターネットやマスコミを通じたトラスト運動の情報化、企業の協力による推進、市民の参加による拡大化と、関西全域にてトラスト運動を展開する。

- 情報化

環境や景観破壊が不安視されるトラスト対象地区を選定し、関西圏センターネットやマスコミを通じて情報を発信する

- 推 進

企業に協力を呼びかけ、資金提供やトラストグッズ（寄付金つき商品やサービス）の開発・販売を通じて運動を推進する

- 拡大化

市民を対象に寄付を呼びかけるとともに、トラストグッズの購入などを通じて運動の拡大化を図る

- 推進方法：
 - 自治体、マスコミ、企業及び市民の参加による運営
 - 関西圏センターネットと連携した情報収集と発信

2. 関西ジオグラフィック

※ ジオグラフィック：geographic＝地理学上の、地理的な。

国際的な地球情報誌「NATIONAL GEOGRAPHIC」（ナショナル・ジオグラフィック）
にちなむ。

●主旨と概要：自治体や企業、市民所有の関西の豊かな自然に関する資料や映像を関西圏センターネットにて収集・体系化し、「関西ジオグラフィック」としてコンテンツ化して発信する。

マスコミとの連携による立体的な情報発信を通じて、市民の環境に対する意識を啓蒙する。

●推進方法：●自治体、マスコミ、市民の参加による運営
●関西圏センターネットと連携した情報収集と発信

3. グリーンフォーラム関西

●主旨と概要：市民をはじめ、関西の自治体職員や学識経験者・建築家・造園業者など、環境保全に関する専門家をネットワークした関西圏センターネットのテーマ解決型「フォーラム」を運営して環境に対する市民の意識向上を図り、庭に木を植える、窓辺に花を飾るといったムーブメントを起こす。

また、「フォーラム」を通じた情報・ノウハウ交換を通じて環境・水・緑化行政などの効率化を図る。

●推進方法：●自治体職員や学識経験者・建築家・造園業者などの専門家や市民をネットワーク
●関西圏センターネットによる「フォーラム」の運営

E. 「集客都市・関西」の実現

関西アニバーサリー

関西国際空港の開港やAPECをはじめとする各種国際会議の開催などを通じて世界各国からの来客は増加しつつあるものの、21世紀の集客都市のモデルとして関西のアイデンティティは十分に形成されているとはいえない。

今、集客都市として新しいアイデンティティを育成するためには、新しい集客装置や機会の開発が期待されるため、関西の豊かな文化遺産や観光資源を「関西アニバーサリー」としてネットワークし、新しい記念日の設定や新しい魅力の創出を図ることが大切である。

新しい集客事業を開発し、その運営を通じて関西の情報力強化と交流人口の拡大を図る。

1. 関西記念日&関西ウィーク

●主 旨：関西のアピール機会として有効な日や期間、個性豊かな祭やイベントが連続する一定期間を「関西記念日」「関西ウィーク」とし、新しい集客事業を開発。情報発信力の強化とともに、交流人口の拡大を図る。

●概 要：「関西記念日」「関西ウィーク」を設定し、それぞれに応じた新しい集客事業を開発する。また、関西の各国大使館や領事館、交通・観光関連各社の協力・タイアップによる観光キャンペーンを展開して集客を促進する。

●「関西記念日」

関西の魅力をアピールし、話題化するための記念日。

ex. ● 関西国際空港開港日（9月4日）を「アジアのゲートシティ記念日」とする

●「関西ウィーク」会期

ex. ● 祇園まつりや神戸まつり・天神まつりが連続する「京阪神三都夏まつり」（7月）会期中

● 神戸の新名物催事ルミナリエを中心とした「京阪神三都冬景色」（12月）会期中

● 関西国際空港開港日を中心とした「アジアゲートシティのフェスティバル」（9月）…アジアの異文化交流を通じた新しい文化の創造 など

●「関西ウィーク」の新規集客事業

- ex. ● 関西総合芸術祭…ユーロパリア（欧州総合芸術祭）のような関西での芸術祭典づくりと各地区での持ちまわり開催
- 新しい文化・芸術の殿堂づくりを踏まえた伝統芸術の集積と新人の発掘
 - 世界都市景観会議・国際源氏物語学会などの文化事業
 - 世界文化遺産フェスティバル・関西大茶会・関西大華道展などの集客事業

●「関西ウィーク」の広報キャンペーン

- ex. ● 「関西親善大使」や「関西文化大使」の募集による広報
- ・ 市民より関西親善大使や関西文化大使を募集し、各国・各地を訪問し、関西のPRを行う市民参加の広報・交流事業
 - 各国大使館・領事館・航空・観光関連企業のタイアップによる観光キャンペーンの展開

●推進方法：●自治体、企業、マスコミ各社による運営

- 関西圏センターネットによる情報発信

関西食街道

古くから食いだおれの街として知られる大阪、中華街をはじめとして世界各国の料理が楽しめる神戸、歴史に培われた伝統料理など時を超えた食文化を保有する京都に加え、明石の鯛・蛸、但馬・近江の牛、丹波の黒豆、和歌山の梅、奈良漬、吉野葛……など、関西は豊かな食資源を有した地域である。

これら、豊かで、個性的な食資源を集客資源として統合・ネットワークすることで、関西への集客・周遊の新しいモチベーションづくりを図る。

また現在進行中の第2中華街構想（ポートピア）など関西の食関連プロジェクトとも連携して、地域的広がり・歴史的広がり・国際的広がりをアピールする施設や事業を開発する。

1. 食遊館

- 主 旨：関西の新しい集客基地となりつつあるベイエリアや都市の再開発計画と連動し、関西各地の老舗や名物料理・食材、アジア各国のレストランなどを集積して世界に通じる食文化の拠点づくりを図る。
- 概 要：世界の食文化が体験できる「グルメミュージアム」、関西の老舗の味や名物料理が満喫できる「デリシャスカンサイ」、アジア各国のレストランを集積した「アジアンビレッジ」などを集積して認知・動員を促進する。
 - グルメミュージアム
 - 世界の食文化の体系的展示と情報提供
 - 食に関する国際的セミナーやシンポジウムの開催
 - 世界の料理コンクール「グルメオリンピック」(4年に1度)の開催
 - デリシャスカンサイ
 - 関西の老舗の味や名物料理の提供
 - 関西の食材や名産品・特産品の販売
 - 調理関連器具や器材の販売
 - アジアンビレッジ
 - アジア各国のレストランを屋台村として集積
 - アジア各国の民族舞踊やフェスティバルの紹介
 - 免税措置を施しアジア各国の食材の販売
- 推進方法：自治体、飲食関連企業による運営

食遊館 イメージ図



関西ライトアップ

六甲山の夜景やATCのイルミネーション、期間限定開催ではあるものの神戸の冬の夜を彩り、震災復興の精神的支援としても効果を発揮したルミナリエなど、関西の夜を楽しむ機会やスポットは広がりながらもまだまだ限られている。

「関西ライトアップ」構想は夜の楽しみを開発し、都市魅力のバロメーターである関西の夜の活性化を図るとともに、観光・集客のシンボルづくりを推進するプロジェクトである。

シンボルとなる地区や施設のライトアップに止まらず、公共施設や商業施設の営業時間延長など、国際化に対応した24時間の都市機能開発を図り、夜を楽しく、豊かに過ごすことのできる関西づくりを推進する。

1. 関西夜市

●主 旨：国際化が進む関西の代表的観光地や商業施設を連携・ネットワークし、会期を特定して夜市を開催。関西の夜間の活性化を通じて国内外からの集客・交流を促進する。

●概 要：会期を特定し、対象となる観光地や商業施設の夜間の営業時間の延長を行い、同時に環境整備や活性化のためのイベントを付加して夜市を開催する。

●「関西夜市」の会場

- ex. ●でんでんタウン
●信楽・清水焼団地
●関西国際空港周辺地区

●「関西夜市」の会期

- ex. ●毎月最終の金曜日・土曜日を会期とした「ラストウィークエンド夜市」
●サマーシーズンの毎土曜日を会期とした「夏・土曜夜市」
●毎月20日など会期を特定した「20日夜市」

●推進方法：●自治体、商店街組合などによる運営
●関西圏センターネットによる情報発信

2. ミュージアムナイト&ナイトエデュケーション

- 主 旨：関西の各美術館や博物館、動物園・植物園・水族館などで夜間のプログラムやエデュケーション事業を展開して新しい夜の楽しみを開発する。
- 概 要：ニューヨーク近代美術館のナイトプログラム、カナダ・バンクーバー水族館のナイトエデュケーション、シンガポールのナイトサファリなどのシステムを導入して、夜間の文化体験・教育体験を促進する。
- 推進方法：
 - 美術館、博物館、動物園、水族館など各施設による運営
 - 関西圏センターネットによる情報発信

F. 関西スポーツ首都構想

スポーツメッカ関西

スポーツメッカを進めると同時に、関西全域の発展に貢献する2008年の大阪オリンピック開催に向けた招致運動を関西全体として支援。「スポーツ首都」としての関西のイメージの確立と発信を目指す。

また、1997年の世界帆船レース（大阪～香港）やなみはや国体の開催をはじめ、2001年の東アジア競技大会、2002年のワールドカップサッカーなどのスポーツイベントを積極的に誘致・開催。これらの連続的開催とともに市民参加型のスポーツイベントの開催により、明るく、健康的で、スポーツマインドあふれる関西づくりを目指す。

1. オリンピック勝手連（1996年12月19日設立）

- 主 旨：100周年の記念すべきアトランタオリンピックを実現したのは、一弁護士ビリー・ペイン氏をはじめとする情熱あふれる有志と市民の盛り上がりによるものだった。

「勝手連」も、2008年の大阪オリンピック招致に向けた決め手は何より市民のバックアップであると考え、市民参加の自主的応援団として組織された。また「勝手連」は2008年の大阪オリンピックの開催を目指すとともに、関西全域でオリンピックにふさわしい街づくり・地域づくりを推進する。

- 概 要：関西在住の有職者やスポーツ選手・企業代表・市民・学生などの参加により組織化された市民の自主的な応援団。2008年の大阪オリンピック招致に向けて積極的な支援活動を展開する。

- “私の一言” メッセージ

オリンピックに関しての自由なコメントを募集し、公開する。

- 街かどPR

車、自転車などにステッカーを貼ったり、ビルの壁面・商店街などに看板、ポスターなどを使ったりして自由にPR。

- オリンピック観戦ツアー

勝手連視察ツアーを実施し、1998年長野のオリンピック、2000年

のシドニー、2004年の開催地を訪問し、住民がオリンピックを盛り上げる様子をスタディし、オリンピックをPRする。

- 草の根署名活動

オリンピック開催を実現したい人々の署名を集め、JOCに届ける。

- オリンピック勝手連決起大会

全会員およびスポーツ選手、著名人などを集めてオリンピック関連の記念イベントを行う。

- リレーエッセイ

リレー形式で“2008年の大阪及び関西”をテーマに 800字程度のショートエッセイを雑誌等（月刊誌、季刊誌、社内報…）に掲載する。

関西に限らず全国へ情報を発信し、オリンピック開催をアピールする。

- オリンピックボランティアの発掘

会員の有志の方々からボランティアの人材やテーマに関する情報を募る。

- 関西圏センターネットによる情報発信

関西圏センターネットのホームページなどを利用してオリンピック勝手連の活動を紹介する。

●推進方法：大阪オリンピック勝手連事務局による運営

2. アジアインターハイ

- 主旨：関西には野球（甲子園）、ラグビー（花園）、バドミントン（大東）、駅伝（京都）など、高校生スポーツ大会のメッカ・資産が豊富にある。また、「アジアのゲートシティ関西」のイメージ獲得を含め、次世代層の国際交流とスポーツマインドの育成を主目的としたアジアインターハイの開催を目指す。

- 概要：日本及びアジア各国の高校生を対象とした野球やラグビー・バドミントン・サッカー・テニス・水泳など、各競技のインターハイの開催。また競技だけではなく、インターハイに向けたスポーツキャンプやスポーツ

サミットなどの開催を通じて次世代層の国際交流を推進する。

ex. ● アジアスポーツサマーキャンプ

アジア各国の高校生が参加して競技技術の向上と交流促進を図るサマーキャンプの開催。

毎年1回の恒例事業とし、関西各府県にて持ち回りで開催する。

●推進方法：自治体、マスコミによる運営

結びにかえて

「地域の魅力」とは、これまで本提言に触れてきたように、豊かな自然・歴史・文化などストックが豊かであれば創れるものではなく、未来への志を持ち、その志の実現に向けて自治体や企業・市民が連携しながら各施策を立体化することで創ることのできるものである。「地域の魅力」とは言い換えれば「地域の総合力」である。

その意味で今回、魅力ある関西づくりに向け一年という短期間で具体的施策を提言出来たのは、「魅力ある関西」委員会が旧3委員会の研究成果や提言の意味などを含め発展的統合というベースがあったからだと言える。

魅力は総合力であり、勿論今回提言された6つの施策が全てであるとは言えない。しかし一方で、魅力づくりは具体的な活動により得られるものである。今回の提言では全ての条件を満たす施策を完璧に構築することより、魅力ある関西づくりに向け出来ることから行動することが大切であると考えている。

本提言にある関西の連携を促進するエンジンとしての「関西圏センター構想」は、まず「関西圏センターネット」というネットワークシステムを立ち上げ、そのサイバースペース上に連携の契機づくり・ノウハウ開発のためのフォーラムやコンテンツ開発というしくみをつくることからスタートしている。しくみが創られ、成功事例が生まれることで「関西圏センター構想」の実現が加速されると思う。また、その成功事例を創るため、「関西圏センター構想」以外の5つの施策については可能な限り「関西圏センターネット」と連携した形で推進されるように組み立てた。

また、現在地方分権の流れが加速する中で「地域のことは地域に任せよう」とする動きが生まれ始めている。一方で、分権の受け皿としての地域には効率的な運営に向けた規模や政策・企画立案力と実行力が求められている。それは地域の魅力づくりに向けて「連携」の視点がより強く求められることを意味する。本提言の施策はどれも自治体間や産・官・学・市民の連携という難しい課題を取り上げている。その意味で実現に向けた課題は多く、これまで以上に勇気と根気が求められると思う。

魅力ある関西づくりに向け出来ることから一歩ずつ始めたい。

〔資料1〕 関西主要プロジェクト年表

	1997	1998	1999	2000	2001	2002年以降
再 開 発 事 業	西梅田「ハービスオオサカ」 (2000年全面完成) 長堀地下街(5月下旬)(クリスタ長堀) 霞町「フェスティバルゲート」(夏) JR京都ターミナル(7月) 扇町「キッズパーク」 神戸大丸(3月)		KIMEC 神戸国際マルチメディア文化 都市(ポートアイランド)	中之島「国際会議場」 大阪市中央卸売市場		(2002) 区画整理事業完成 (2004) 阿倍野区市街地再開発事業 難波地区再開発計画 (2005) 湊町地区総合整備計画
ベ イ エ リ ア 開 発	播磨科学公園都市 spring 8 (大型放射光施設)(10月)	明石海峡大橋	大阪海洋博物館		U S J	(2003) 神戸空港 (2007) 関西国際空港滑走路供用
文 化		京都リサーチパーク (第2期)			神戸三田国際公園都市	(2002) 国立国会図書館関西館 (2003) 大阪府立現代美術 センター (2005) 西播磨テクノポリス
新 線 開 発	J R 東西線(3月) 大阪市営地下鉄「大正～京橋間」 南港・港区連絡線 大阪モノレール「南茨木～門真」間 国際文化公園都市モノレール 「万博記念公園～大阪大学病院前」間 京都市高速鉄道東西線 「二条～醍醐」間				阪神西大阪線	(2005) なにわ筋線 (2005) 外環状線
レジャー&リゾート	大阪ドーム計画(3月) 鶴見緑地みらい計画	淡路島 「おのころ愛ランド」	燦・黒潮リゾート構想	琵琶湖リゾート ネックレス構想		
ス ポ ー ツ	なみはや国体(9月・10月)				東アジア競技大会	(2002) ワールドカップ (大阪・神戸) (2008) 大阪オリンピック (誘致中)

[資料2] 関西を考えるマクロデータ

●人口は都市盛衰の指標

関西が最も栄えていたのは1600年
・・・人口の上位3位までが京阪神

○1600年当時の県別人口のベスト10

※ 都市の盛衰ランキング 時事通信社
佐貫利雄（さぬきとしお） 帝京大学経済学部教授 著 より

1	大坂	109万人
2	兵庫県	71万人
3	京都	71万人
4	愛知県	48万人
5	新潟県	42万人
6	千葉県	41万人
7	奈良県	40万人
8	三重県	39万人
9	東京	36万人
10	岐阜県	33万人

※	3大都市圏を100としたシェア
・	京阪神都市圏 50.8%
・	東京都市圏 25.2%
・	中京都市圏 24.0%

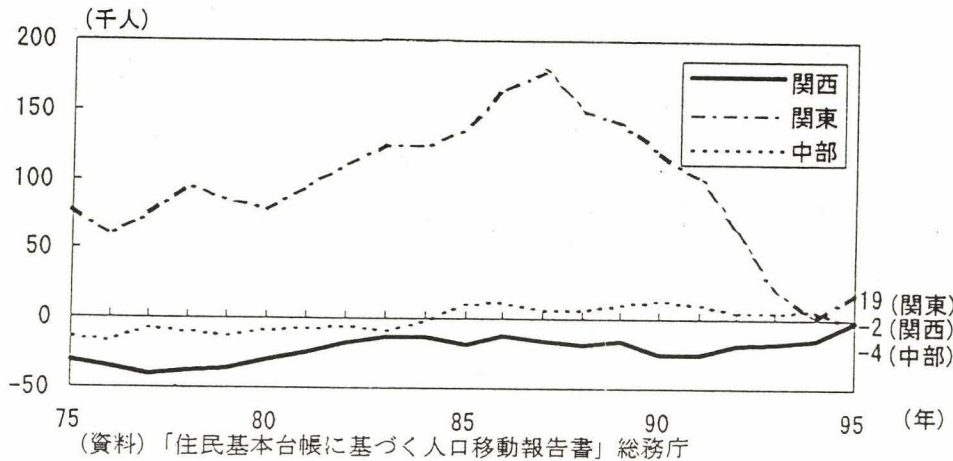
○1995年の県別人口のベスト10（95年国勢調査速報）

1	東京都	1177万人
2	大阪府	880万人
3	神奈川県	825万人
4	愛知県	687万人
5	埼玉県	676万人
6	千葉県	580万人
7	北海道	569万人
8	兵庫県	540万人
9	福岡県	493万人
10	静岡県	374万人
13	京都府	263万人

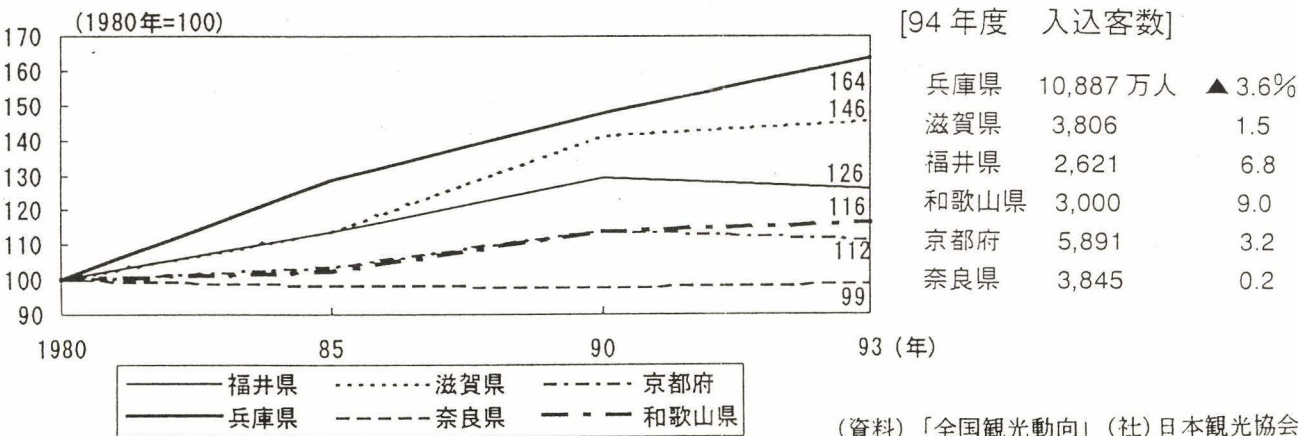
※	・京阪神都市圏 27.9%
・	東京都市圏 54.1%
・	中京都市圏 18.0%

●流出超過傾向の続く関西

※ 人口の流入・流出状況を示す社会増から



●奈良県・京都府の伸びが低い観光客入込客数



[94年度 入込客数]		
兵庫県	10,887万人	▲3.6%
滋賀県	3,806	1.5
福井県	2,621	6.8
和歌山県	3,000	9.0
京都府	5,891	3.2
奈良県	3,845	0.2

（資料）「全国観光動向」（社）日本観光協会
（注）大阪府は統計なし

※ 地域区分は断りがない限り、以下の通りとする

地域	都	道	府	県
関西	福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県			
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県			
中部	長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県			
全国	関西、関東、中部を含む全都道府県			

〔資料3〕 「サイバー関西プロジェクト」について

- 95年秋に開催されたA P E C大阪会議を契機に産官学共同で開発された世界でも最先端の技術を駆使したインターネットシステムをベースにした、高速インターネットの利用アプリケーション実証実験
- 会 長：宮原秀夫（大阪大学 基礎工学部教授）
- 事務局：高度情報化推進協議会
- 参加企業・団体：大阪大学、日本電信電話、富士通、松下電器産業、日本電気、新世代通信網実験協議会、電通、住友電気工業、国際電信電話、関西電力、近畿電気通信監理局、近畿通商産業局、朝日放送、大阪ガス、倉敷芸術科学大学、神戸市、神戸市立外国語大学、サントリー、デザイン、奈良先端科学技術大学院大学
など30社・団体が参加
- インターネット上でのデジタルデータの品質保証やネットワークの経路制御、負荷を分散する機構など技術的要素、制御的要素について研究
- 156Mbpsの高速回線で大阪大学、奈良先端科学技術大学院大学、B B C C（新世代通信網実験協議会）と主な企業を結ぶ
- 実験実施時期：平成8年11月から平成9年12月

平成8年度・「魅力ある関西」委員会活動状況

平成8年

- | | |
|-----------|--|
| 6月17日 | 正副委員長会議 「本年度の活動方針について」 |
| 6月28日 | スタッフ会 「本年度の活動計画について」 |
| 8月30日 | マルチメディアシティ勉強会
講師：京都大学文学部 教授 井上 俊 氏 |
| 9月6日 | スタッフ会 「関西圏センター構想について」 |
| 9月13・14日 | 直島文化村（香川県）・ベネッセハウス視察 |
| 10月11日 | スタッフ会 「関西圏センター構想について」 |
| 10月25日 | 講演会 「“魅力ある関西”の創造に向けて
～21世紀の関西ビジョン～」
講師：作家・経済評論家 堺屋 太一 氏 |
| 11月20・21日 | 第10回 大阪コレクション見学会 |
| 11月25日 | 正副委員長夕食懇談会 |
| 11月28日 | 正副委員長会議 「提言骨子（案）についての討議」
「サイバー関西の今後の在り方について」
講師：大阪大学基礎工学部 教授 宮原 秀夫 氏 |
| 12月10日 | 講演会・常任委員会 「関西圏の共栄型発展を目指して
～広域連携の視点から～」
講師：兵庫県知事 貝原 俊民 氏 |
| 12月16日 | 講演会・常任委員会
「関西圏の緩やかな連携に向けた具体的方策について」
講師：(株)電通総研 社長兼研究所長 福川 伸次 氏
常任委員会 「提言骨子（案）についての討議」 |
| 12月26日 | スタッフ会 「提言（案）についての討議」 |

平成9年

- | | |
|-------|----------------------|
| 1月14日 | 常任委員会 「提言（案）についての討議」 |
|-------|----------------------|

- | | |
|-------|---|
| 1月17日 | 常任幹事会・幹事会にて提言（案）「魅力ある関西～人・企業・都市が集まるデスティネーション・カンサイ」を審議 |
|-------|---|

- | | |
|-------|---|
| 1月28日 | 提言「魅力ある関西～人・企業・都市が集まるデスティネーション・カンサイ」を記者発表 |
|-------|---|

以 上

平成8年度・「魅力ある関西」委員会常任委員会名簿

(敬称略・順不同・役職は平成8年12月現在)

委員長	山下和彦	電通	副社長・関西支社長
副委員長	松原徳一	阪急シグマコーポレーション	社長
〃	木村啓介	関西国際空港	副社長
〃	桐山謙一	大阪国際見本市委員会	理事
〃	大辻眞喜夫	竹中工務店	専務
〃	山下健一	大林組	副社長
〃	井上龍吾	全日本空輸	専務・大阪支店長
〃	横山善太	日本航空	取締役・大阪支店長
〃	白岩宏	三井物産	取締役
〃	篠崎由紀子	都市生活研究所	関西副支社長
〃	笈川隆	日本エアシステム	所長
〃	横井省吾	日本電信電話	取締役・大阪支店長
〃	安藤忠雄	安藤忠雄建築研究所	関西副支社長
〃	近藤三津枝	パシフィック	代表取締役
〃	木部義人	西日本旅客鉄道	代表取締役
常任委員	青戸元也	関西セルラー電話	常務
〃	井上和夫	近畿日本鉄道	社長
〃	井上尚男	住友金属工業	副社長
〃	井筒邦雄	大阪ガス	取締役
〃	泉寿夫	日本交通事業社	顧問
〃	大土井貞夫	大阪メディアポート	取締役
〃	大原詔久	テレビ大阪	社長
〃	金光洋三	NTT関西移動通信網	編成局長
〃	久保勇	南海電気鉄道	社長
〃	藏田啓樹	関西電力	取締役
〃	小嶋淳司	がんこフードサービス	支配人
〃	小西幸雄	日産建物管理	代表取締役
〃	西都庄次	住友信託銀行	社長
〃	澤一寛	日本カラーテクノロジー研究所	調査部副部長
〃	新堂友衛	大阪市信用金庫	社長
〃	瀬川佑一郎	松下電器産業	理事
〃	田中康典	三洋電機	社会文化部部長
〃	永原義夫	王建工業	常務
〃	西野正夫	読売テレビ放送	社長

〃	濃 人 賢 二	帝 国 ホ テ ル	常務・大阪総支配人
〃	前 田 一	エ フ エ ム 大 阪	専 務
〃	松 野 秀 司	日 本 開 発 銀 行	大 阪 支 店 長
〃	松 本 孝	三 和 実 業	社 長
〃	柳 瀬 璋	毎 日 放 送	専 務
〃	山 野 寿 彦	毎 日 新 聞 社	大 阪 本 社 編 集 局 長
〃	吉 田 正 行	け い は ん な	専 務
〃	吉 野 国 夫	ダ ン 計 画 研 究 所	社 長
〃	吉 野 忠 治	日 本 コ ン ベ ン シ ョ ン サ ー ビ ス	専 務 ・ 関 西 支 社 長
ス タ ッ フ	鈴 木 邦 彦	電 通	マ ー ケ テ ィ ン グ 局 局 次 長
〃	細 見 幸 久	電 通	営 業 総 務 営 業 管 理 部 部 長
〃	福 本 哲 也	電 通	マ ー ケ テ ィ ン グ 局 マ ー ケ テ ィ ン グ 企 画 部 参 事
〃	徳 永 真 一 郎	電 通	関 西 プ ロ ジ ェ ク ト 室 業 務 推 進 2 部 副 参 事
〃	松 田 研	阪 急 電 鉄	社 長 室 調 査 役
〃	宮 井 光 平	関 西 電 力	秘 書 室 副 調 査 役
〃	山 川 茂 光	大 阪 国 際 見 本 市 委 員 会	企 画 渉 外 課 課 長
〃	橋 本 健 一	竹 中 工 務 店	バ イ エ リ ア プ ロ ジ ェ ク ト 推 進 チ ー ム 副 部 長
〃	長 谷 川 博	大 林 組	営 業 推 進 部 副 部 長
〃	小 林 俊 一	全 日 本 空 輸	総 務 課 リ ー ダ ー
〃	中 野 隆	日 本 航 空	大 阪 支 店 総 務 部 総 務 グ ル ー プ 次 長
〃	岡 橋 輝 和	三 井 物 産	業 務 部 営 業 推 進 室 長
〃	入 屋 修	日 本 エ ア シ ス テ ム	大 阪 業 務 部 長
〃	中 川 雅 義	日 本 電 信 電 話	調 査 研 究 室 課 長
〃	土 屋 隆 一 郎	西 日 本 旅 客 鉄 道	調 査 室 長
代 表 幹 事 ス タ ッ フ	村 上 福 壽 郎	三 洋 電 機	副 会 長 室 部 長
〃	佐 々 木 洋 三	サ ン ト リ ー	経 営 企 画 部 課 長
〃	福 田 紀 子	サ ン ト リ ー	経 営 企 画 部
事 務 局	萩 尾 千 里	関 西 経 済 同 友 会	常 任 幹 事 ・ 事 務 局 長
〃	梅 名 義 昭	関 西 経 済 同 友 会	企 画 調 査 第 1 部 副 部 長
〃	松 尾 康 弘	関 西 経 済 同 友 会	企 画 調 査 第 1 部 課 長
〃	有 村 英 樹	関 西 経 済 同 友 会	企 画 調 査 第 1 部 主 任 研 究 員
〃	谷 要 恵	関 西 経 済 同 友 会	企 画 調 査 第 1 部

魅 力 あ る 関 西
人・企業・都市が集まる「デスティネーション・カンサイ」

平成9年1月17日発行

発 行 者 社団法人 関西経済同友会
常任幹事 萩 尾 千 里
事務局長

大阪市北区中之島6-2-27

電話 (06) 441-1031

印 刷 所 あさひ高速印刷株式会社
大阪市西区江戸堀2-1-13

インターネットアドレス番号 <http://www.kbch.isp.ntt.jp/doyukai/index.html>

